

## 令和2年度第2回袖ヶ浦市子ども・子育て支援会議

1 開催日時 令和2年8月17日(月) 午前10時開会

2 開催場所 市役所旧館3階大会議室

3 出席委員

委員長	和田 操	委員	小林 清子
副委員長	武井 千尋	委員	田中 直子
委員	井上 美鈴	委員	三枝 加代子
委員	高梨 勝智	委員	大熊 賢滋
委員	小熊 良	委員	寺田 陽一
委員	江澤 孝	委員	鈴木 美由紀
委員	柳瀬 芳枝	委員	松下田 美幸

4 欠席委員

委員	小島 玲子	委員	神崎 保
委員	福島 桜子	委員	冨田 令子
委員	柳井 美重子	委員	谷本 有美

5 出席職員

福祉部長	今関 磨美
子育て支援課長	近藤 英明
子育て支援課子育て環境推進班長	漆原 聡美
子育て支援課こども家庭班長	長谷川 操
子育て支援課子育て環境推進班 副主査	巽 浩二郎
福祉部参事(保育課長事務取扱)	花澤 吉敬
保育課保育班長	薩摩 智一
健康推進課上席保健師(すこやか親子班長)	茂木 敬子
学校教育課副参事(指導班長事務取扱)	磯部 正史
学校教育課副課長(学事保健班長事務取扱)	伊井 勝典

6 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5人
傍聴人数	0人

7 議題

- (1) 子育て応援プランの令和元年度進捗状況報告について
  - ①次世代育成支援行動計画の実績評価について
  - ②子ども・子育て支援事業計画の実績評価について
- (2) その他

## 8 議事

### 1 開 会

#### 2 市長挨拶

※市長より挨拶

#### 2 委員長挨拶

※委員長より挨拶

#### 3 新任委員紹介

※高梨委員、三枝委員より自己紹介

※市長退席

#### 4 職員紹介

※事務局職員紹介

### 5 議 題

#### (1) 子育て応援プランの令和元年度進捗状況報告について

##### ①次世代育成支援行動計画の実績評価について

和田議長

それでは、議題に入ります。

議題（1）子育て応援プランの令和元年度進捗状況報告について、①次世代育成支援行動計画の実績評価について、事務局より説明をお願いします。

※事務局から資料1-1、資料1参考により説明

#### 【 質疑・応答 】

和田議長

今、議題（1）の①について説明がございましたが、質疑を受け付けしますので、質疑をされたい方は挙手をお願いします。

井上委員、どうぞ。

井上委員

事業実績評価において、ハード面の環境整備が進んでいるのは良いことだと思います。一方で、ソフト面の評価はどのように実施しているのでしょうか。具体的には放課後児童クラブや保育所など、様々な事業において質の評価はどのような方法で行われているのでしょうか。

和田議長

井上委員のご質問について、事務局より回答をお願いします。

#### 事務局

井上委員のご質問は、No.1-1 放課後児童クラブの環境改善や、No.1-16 待機児童解消のための保育所等の整備において、施設整備が進んでハード面の評価は上がったが、それに対して質の担保がどのようになっているかというお話かと思えます。

保育所や地域型保育事業の場合、市の方で監査や指導を実施したり、県が実施する保育所の監査に同行したりといったことを実施しております。また、今回の施設整備に関しては、公募や事業者からの提案を受ける際に、保育の基本理念や施設長の経歴などを提出していただき、十分な質が確保できるかを確認しているところです。

#### 事務局

続きまして、放課後児童クラブのソフト面の強化についてお答えいたします。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できませんでしたが、年に一度、国の放課後児童クラブ運営指針や市の基準条例に基づいた運営を行っているかのヒアリングを行い、適正な運営の実施について確認しております。また、市内の全クラブを対象にした研修会を主催するとともに、県主催の研修会等への参加を促すなど、多くの職員に研修の場を提供し、職員の資質向上に努めているところです。

#### 井上委員

施設職員の資格や研修はもちろんですが、質の向上という意味では、第三者の評価や、サービス利用者の評価が非常に大切だと感じています。幼稚園や保育所の場合は保護者に、放課後児童クラブなら保護者や高学年のお子さんにアンケートを取ることが、客観的な評価につながります。面と向かっては言いにくいような保護者の声も聴けるのでとても良いと思います。

大学では随分前から、教授や授業の評価を完全匿名で実施しています。袖ヶ浦市ではそのような評価を既に実施しているのか、あるいは実施を検討されているのかを伺います。

#### 和田議長

事務局、お願いします。

#### 事務局

昨年度に実施したニーズ調査では、市に期待する項目として、学童期の子どもの放課後対策の充実といった、ソフト面での充実についてもお考えを伺っているところです。こうした面の期待が多いというのは、ある程度現状に満足しているから更に期待するのか、あるいは現状に不足を感じているのかは、データの詳細を見ていかなければならないと考えています。

ニーズ調査はあくまで全体の話であって、個々の事業者のヒアリングについては市の方で行っております。利用者の声については、市の直営事業についてはある程度把握しておりますが、民間事業者についてはどのような形で把握していくのか、井上委員のご意見も参考にさせていただきながら、今後の検討課題になると思います。

#### 井上委員

袖ヶ浦市に限らず、他市でも学童保育のソフト面の整備には皆さん非常に苦心しており、難しい問題となっています。全体アンケートから零れ落ちるような個別のケースについて、例えば不適切な保育やいじめというような事例は、子どもの人生に関わるような問題なので、しっかりと対応する必要があります。そうしたことを私達が意識していっただけでも変わっていくと思うので、今後頑張っていただければと思います。

和田議長

いかがですか。先ほどの事務局の答弁について、他にご意見のある方はいらっしゃいますか。意見が無いようなので次に進みたいと思います。

## 1) 子育て応援プランの令和元年度進捗状況報告について

### ②子ども・子育て支援事業計画の実績評価について

和田議長

続きまして、議題（1）の②子ども・子育て支援事業計画の実績評価について、説明をお願いします。

※事務局から資料1-2、資料1参考により説明

和田議長

ただいま議題（1）の②について説明がございましたが、質疑を受け付けしますので、よろしくお願いいたします。

松下田委員

4ページのNo.10 乳児家庭全戸訪問事業について伺います。例えば、里帰り出産などで袖ヶ浦市に滞在されている方も対象となるのでしょうか。今は何か月も里帰りをされている方もいらっしゃるのでは、どのように対応しているのか聞きたいです。

和田議長

ありがとうございます。事務局の答弁をお願いします。

事務局

新生児訪問は各市町村において実施している事業です。他市から袖ヶ浦市に里帰りされる方の場合、まずお母さんが居住地の市町村に新生児訪問の希望を出します。居住地市町村から里帰り先である袖ヶ浦市に連絡が来て、市町村間でやり取りをして可能な限り対応しています。

逆に、袖ヶ浦市民の方が他市町村に里帰りされるケースでは、母子手帳発行時や健診等で里帰り先を把握しておりますので、里帰り先での新生児訪問について事前にお伝えしています。コロナ禍において急遽里帰り期間が延びたような場合でも、まず電話等で状況を確認して対応しております。

松下田委員

里帰り先で新生児訪問を希望する場合は、お母さんの方から申請しないといけないということでしょうか。

事務局

母子手帳の別冊とって、健診の無料券が付いているところに出生の通知ハガキがありまして、それを全員に出していただくようご協力をお願いしています。そのハガキが来た段階で、お子さんがどこでどのように暮らしているのかを市が把握できています。市外に滞在されているお子さんについては、里帰り先での新生児訪問希望の確認を取って全数対応しています。

和田議長

他にございますか。田中委員、ご意見はございませんか。

#### 田中委員

子ども・子育て支援において、数の確保にご努力いただきありがとうございます。親御さんへの支援も充実してきましたが、先ほど井上委員が仰ったように、今後はソフト面の充実が大切になると思います。

新型コロナウイルス感染症の影響で、子どもたちは室内の過ごし方にとっても制約を受けていて、それが心身の成長に影響することが心配です。室外、園の外、公園などのなるべく開放的な場所で過ごせるように、何らかの対策を急ぐ必要があると思っています。

2ページのNo.4 地域子育て支援拠点事業を見ても、公立保育所が持ち回りで実施しているなかよし広場の利用者が少なくなってきていて、曜日を決めて順番で開催してもなかなか今のお母さん達が情報をキャッチするのも難しい面があると思うので、いつ行っても大丈夫な公園ができるといいなと思います。

袖ヶ浦駅海側の新しい認定こども園を視察した際に、すぐ隣の空き地に公園ができるという話を聞いて、とても良いことだと思ったのですが、いまだに公園ができていません。お母さん達にもいつ頃公園ができるのかと聞かれたりするので、コロナ後のことも考えるとそうした場所を増やして、子どもの成長をサポートした方が良くと思います。よろしくお願いします。

#### 和田議長

ありがとうございました。ソフト面の充実と公園の件について、事務局の答弁をお願いします。

#### 事務局

まず公園の件ですが、袖ヶ浦駅海側近隣公園につきましては、今年度の整備ということで進めているところです。

次にソフト面、コロナ禍における子どもたちの過ごし方というところでご意見を頂きましたが、こちらについては、初めての状況の中、どのような形を取っていくのがベストなのかというところを手探りしつつ対応しているところです。国の方からも様々な状況の変化に応じて対応策が出ていることから、そういった部分も情報共有しつつ、現場の方々の負担にならないよう注意しながら、公立・私立共に対応していることをご理解いただければと思います。

#### 和田議長

よろしいですか。ほかに質問はございますか。

#### 井上委員

先ほど松下田委員が質問されていた乳児家庭訪問事業のところでも少し気になる点がありまして、産後の親御さんの抑うつについて心配に思います。保健師・助産師が訪問の際にチェックされていると思うのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で全戸訪問ができなくなっているということで、その辺りがどうなっているのかを知りたいです。

もう一つ、働き方が変わったということで、家庭内での暴力・暴言などのDVが増えているという話もありますので、その中には訪問で見えてくることもあるのではないかと。コロナ禍においてその辺りにどのような変化があったのかも伺いたいです。

#### 和田議長

事務局、お願いします。

#### 事務局

まず、出産後のお母さんの抑うつ等の心配についてお答えします。コロナ禍のなか、不安を抱える妊婦さんが多くいらっしゃることは、医療関係者や行政も危惧しておりました。木更津・君津・富津・袖ヶ浦の4市は君津保健所（君津健康福祉センター）の医療圏ということで、深く連携しています。医療機関についても、管内の産婦人科と行政は常に連携を取らせていただいています。

コロナ以前から、出産後の退院にあたって心配がある方については、医療機関から行政に情報を頂き、様々な施策を展開していました。コロナ禍においても同様に、気になるお母さんについては医療機関から連絡を頂いておりましたので、コロナ流行下での訪問を不安に思わないよう説明し、訪問しておりました。出産前に特に気になる症状がなかった方については、出生届の際に新生児訪問についてご家族の希望を伺いました。その後も電話等できめ細かくフォローし、単に希望が無いから訪問しないというのではなく、電話で聞きながら対応していた形です。

次に、家庭内のDVについてですが、保健師等が訪問の際に聞き取りまではしておりました。実際に対応する部署は別にございますので、そちらの方からも状況を説明いたします。

#### 事務局

子育て支援課です。DVの関係ですが、4月以降はやはり増えているのが現状となります。新生児訪問等での聞き取りのあったケースや、保健師との面接の際に少し気になるということで連絡をいただいたケースにつきましては、健康推進課の保健師と子育て支援課の社会福祉士が該当の家庭を訪問するなどして、DVへの対応を取らせていただいております。

#### 井上委員

ありがとうございました。コロナ禍で自分に向き合う、あるいは家族の中で向き合うことが増えることによって抑うつが増す、あるいは家族の不和が激しくなるというケースがあります。親御さんが外に出られないため「子育て＝孤育て」となっていて大変だと思うので、市の方がそうやって積極的にフォローアップしてくださるのは非常に心強いと思いました。

#### 和田議長

よろしいですか。ほかに質問はございますか。

無いようなので、議題（1）の②子ども・子育て支援事業計画の進捗状況については了承ということでよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

### （2）その他

#### 和田議長

それでは最後に、議題（2）その他について、事務局より説明をお願いします。

※事務局から「民間認可保育施設の整備支援等の進捗状況について」により説明

### 【 質疑・応答 】

#### 和田議長

ありがとうございました。

来年以降、待機児童が大分解決されるようですねけれども、ただ今の説明について何かご意見がありましたら挙手をお願いします。

はい、小林委員。

**小林委員**

ただ今提案された施設整備のこととは少し離れるのですが、いつもおとなしいお爺ちゃんが、ひ孫さんと一緒におやつを食べているときに、生き生きとひ孫さんの面倒を見ていて、これってすごくいいなあと思うことがありました。そのようなことから、高齢者の施設の中に子ども達の保育園があるような施設ができたらいいのにか、夢のような話かもしれませんが、そのようなものを考えてみたらということをお願いいたします。

**和田議長**

ただ今お願いのありました件につきまして、市としてはどのような考えでしょうか。

**事務局**

ただ今の件につきましては、市の方で整備を進めているなかでそういう形の施設はございません。しかしながら、今年の2月に開設された高齢者施設の蔵波苑は、事業所内に従業員向けの保育施設を設けております。現在はコロナの関係で中々高齢者と子ども達の触れ合いというのも難しいと思いますが、今後運用の仕方によっては触れ合いの機会もできるのではないかと思います。

また、各保育施設や幼稚園等の中には、そうした高齢者施設を訪問する交流事業を実施している事業所もありますので、そういった形がお互いにとって良い結果になると思います。

待機児童が増えている海側においては、新しく一戸建てを建てた共働き世帯が転入してお子さんを預けるといふ形になるため、保育を希望する率が非常に高くなっています。そういった地区では、地域全体が若い方の街並みとなっているので、なかなか地域での交流というのが難しい面もあります。その一方で、内陸の平川地区などでは、今でも地域のお祭りに子どももお年寄りも集まって一緒に楽しんでいますが、今年はコロナの影響で中止になってしまいました。そういった様々な交流の機会、地域による機会や、各施設による触れ合いの機会を増やしていければと思います。

**和田議長**

よろしいですか。他にありませんか。はい、井上委員。

**井上委員**

1点目の質問は、新たな施設の定員がそれぞれ76名と19名となっていますが、これは募集する年齢が0から2歳児ということでしょうか。

2点目は、最後のページの認可保育所の整備運営事業者の募集について、定員が130名から160名とあるのですが、子どもの数が多いように感じます。以前こちらでも意見を述べさせていただきましたが、一人の保育者が何人まで子どもを見られるかは決まっていますが、施設全体の上限は決まっていません。あまり募集施設の定員が多いと質の確保が心配なので、何故定員がこの人数に決まったのかをお伺いしたいです。

**和田議長**

ありがとうございました。事務局の答弁をお願いします。

**事務局**

まず一つ目のご質問にお答えします。施設ごとの受入れの年齢ですが、こちらの資料の①スク

ルドエンジェル保育園袖ヶ浦認可園と③スクルドエンジェル保育園神納園につきましては、普通の認可保育所になりますので、0歳から5歳の就学前児童を受け入れる施設となります。②アレッタ袖ヶ浦園と④スクルドエンジェル保育園袖ヶ浦園Ⅲにつきましては、小規模保育事業所ということで、受け入れは2歳児以下で、19名までの定員ということになります。

二つ目のご質問につきまして、認可保育所の募集にあたり、定員が130名から160名ということで、質の確保が大丈夫かということではありますが、実際袖ヶ浦市の既存施設を見ますと、この規模の保育所はそれほど多くはございません。袖ヶ浦駅前の認定こども園まりんは全体定員が240名でそのうち保育部分が150名、後は長浦地区の白ゆり保育園は定員が150名となっています。それ以外の施設については定員が120名程度であったり、最近では60名、90名といった施設も整備しております。

今回この範囲で定員を募集したのは、最初にご説明した通り、転入の増加等により保育ニーズがかなり増えておりまして、それなりの量を確保しなければならないということが喫緊の課題としてあるためです。

どのように保育の質を確保していくかということですが、今回の保育施設の整備運営事業者の募集については、公募という形を取っておりますので、まずは事業者としてエントリーしていただき、保育施設の整備計画や運営計画を作っていただいたうえで、運営内容等を我々市の方で審査し、整備運営事業者として採択していくという流れでございます。そのなかで、しっかりと運営できる事業者を選定していきたいと考えております。

#### 井上委員

今後新しく施設を作るときには、例えば既存施設の定員が200名だから定員130名は多くないというような考え方ではなく、今から変えていかないと、いつまで経っても変わらないのだと思います。保護者として預ける際に、自分のクラスの担任や副担任、隣のクラスの先生くらいまでは分かるかもしれないけれど、それ以外のクラスの先生の顔が見えない、つまりコミュニケーションが取れないという風を感じるのではないのでしょうか。

働く先生の側からしても、200人もいたら遠くのクラスの子どものことは分からないということで、担任の責任が重くなる訳ですよね。でも、例えば担任の先生がちょっと間に合わないときに、他のクラスの担任がそのクラスの子どものことをよく知っていれば、自然に入ることができるということになるのではないのでしょうか。

もちろん保育の定員、つまり量が必要なことは非常に分かるのですが、子どもの心の発達を考えたときにそれで良いのかと思います。質の良い保育は将来大人になった時にメンタルヘルスも安定するし、学童期の問題にも明らかに影響するということが大分前の研究で言われています。量を確保すると同時に、質の高い保育も目指さなければならないということを念頭に置く必要があります。例えば、お金は掛かるかもしれないけれど、定員80人の施設を2つ作るとか、そういうことも考えていただけないのでしょうか。子どもの心の発達には非常に大切なことだと思うので、ここは強調して申し上げたいと思います。よろしくお願いします。

#### 和田議長

ありがとうございます。要望ということでよろしいでしょうか。

他に質問等はございますか。それでは大分時間も経過しましたので、議題(2)その他を終了いたします。

本日は、皆様の貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

本日の議題は全て終了しましたので、進行を事務局に戻します。